

# 令和6年度 平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

## 2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

## 3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

## 4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

# 令和6年度 平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
実施月日			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	138	53	47	4.0	12.3
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

## 2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
実施月日			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	136	61.2	45.6	47.2	51.2	49.4	5.5	5.2	15.1	4.4	7.6
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	53.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.3	6.5
	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.4	53.6	5.3	5.0	14.8	5.0	6.9
2 年	学校	122	59.8	44.8	41.9	41.3	50.3	9.3	5.2	10.8	8.2	8.7
	大阪市	—	66.1	49.9	51.4	49.5	54.6	8.4	4.6	8.2	6.1	7.0
	大阪府	—	65.5	49.5	50.7	47.2	54.0	10.1	5.2	9.5	7.4	7.9
1 年	学校	120	54.3	45.8	46.2	51.3	55.6	10.3	7.5	9.6	5.0	6.2
	大阪市	—	59.0	53.7	50.5	55.6	62.1	8.3	5.5	7.4	3.8	4.9
	大阪府	—	58.5	—	49.8	—	61.5	9.4	—	8.8	—	5.8

- ※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施  
 ※ 1年生の理科は化学的領域を選択  
 ※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択  
 ※ 3年生の理科はB問題を選択

## 3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】 (スコア)	聞くこと 【リスニング】 (スコア)	書くこと 【ライティング】 (スコア)	話すこと 【スピーキング】 (スコア)
実施月日						
3 年	学校	137	97.0	93.6	125.8	89.8
	大阪市	—	105.7	104.6	149.6	102.1

## 4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャト ルラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
	133										
2 年 男 子	学校	27.26	25.20	37.98	48.66	77.57		7.98	195.58	17.95	38.56
	大阪市	28.38	26.42	42.74	51.50	79.76		8.08	194.64	19.84	41.10
	全 国	28.95	25.94	44.47	51.51	78.98		7.99	197.18	20.57	41.86
2 年 女 子	学校	23.43	23.85	44.05	40.35	46.08		9.38	154.18	10.10	42.49
	大阪市	22.99	22.21	45.64	45.86	52.98		9.01	167.01	12.04	47.51
	全 国	23.18	21.56	46.47	45.65	50.67		8.96	166.32	12.40	47.37

調査結果から

## 全国学力・学習状況調査結果

### 【生徒質問紙の回答結果について】

多くの項目で全国や大阪市を下回る結果であったが、「自分にはよいところがあると思いますか」の項目においての肯定的解答は、全国や大阪市の平均を上回っていた。自己肯定感が高い生徒たちだからこそ、丁寧に進路指導を行い、将来の夢や目標を持てるように導きたい。

### 【各教科の成果と課題、今後の授業改善に向けて】

#### <国語>

平均正答率を全国と比較すると5ポイント低く、大阪市と比較すると3ポイント低い。しかし、平均無解答率では大きな差はない(全国-1.6ポイント、大阪市-0.5ポイント)。全国や大阪市とは大差がないことから、本校の生徒は国語のテストには何とかして答えを書こうと努力しているのが分かる。

「情報の扱いに関する事項」は全国と一番近く、1.6ポイントの差である。大阪市とも0.5ポイントの差で、大差がない。「書くこと」の項目が全国との差が激しく、8.4ポイント下回っている。大阪市とも5.3ポイントの開きがある。

#### <数学>

平均正答率を全国と比較すると5.5ポイント低く、大阪市と比較すると4ポイント低い。数学も国語と同じで、平均無解答率はほぼ全国や大阪市とは差がない。

全国と比較して差があまりないのが、数と式の分野であったが、全国とは3.7ポイントの差、大阪市とは2.2のポイントの差ができてしまった。

一番差が開いてしまったのは、関数である。全国と8.2ポイント、大阪市とは5.6ポイントあいてしまった。

### 【今後に向けて】

#### <国語>

これからも、朝の読書活動を引き続き行い、また各教科内でも読解力を身につける指導を行う。記述問題については、苦手意識が強いため、普段から文章を書く回数を増やし、苦手意識を克服する指導を行っていく。

#### <数学>

これまで、夏休みには希望者対象の補充学習に何日も取り組み、日頃の授業でも復習する時間を取ってきた。また、放課後には学習会を行い、毎週末にはプリントを用意し、生徒に取り組ませている。

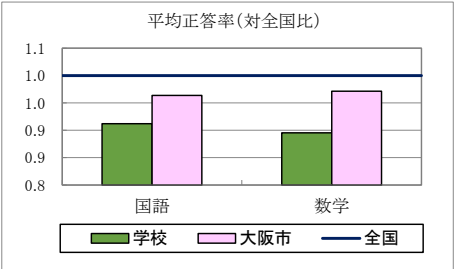
今後も現在の取り組みを授業時間や放課後などに継続して行っていき、苦手な問題にも理解が深まるように、時間をかけて取り組んでいく習慣を身につけたい。

令和6年度 平野中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

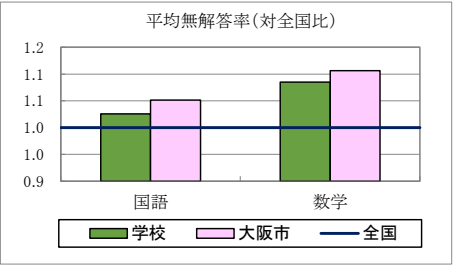
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	53	47
大阪市	56	51
全国	58.1	52.5



	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	4.0	12.3
大阪市	4.1	12.5
全国	3.9	11.3

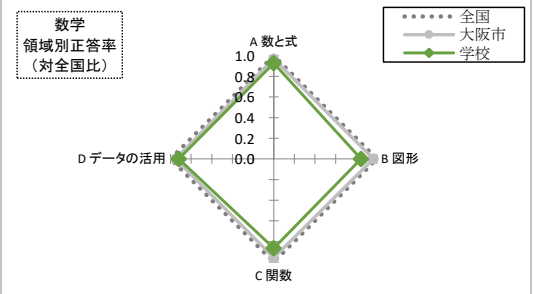
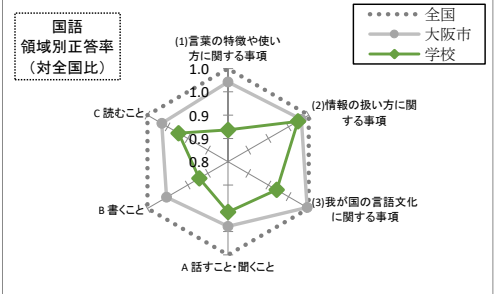
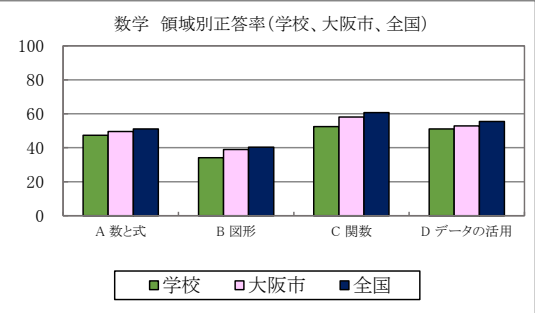
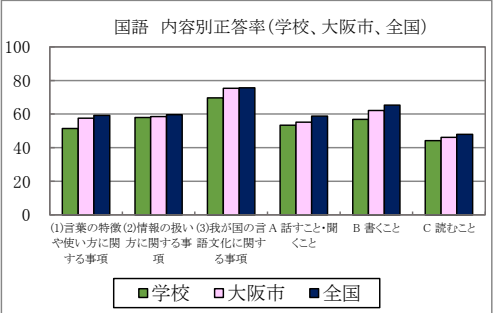


【 国 語 】

学習指導要領の 内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	3	51.4	57.5	59.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	58.0	58.5	59.6
(3)我が国の言語文化 に関する事項	1	69.6	75.3	75.6
A 話すこと・聞くこと	3	53.4	55.2	58.8
B 書くこと	2	56.9	62.2	65.3
C 読むこと	4	44.2	46.2	47.9

【 数 学 】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	47.4	49.6	51.1
B 図形	3	34.1	38.9	40.3
C 関数	4	52.5	58.1	60.7
D データの活用	4	51.1	52.8	55.5



# 令和6年度 平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

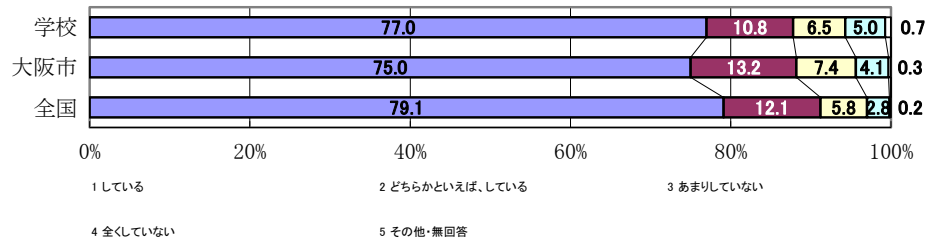
## 生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号  
質問事項

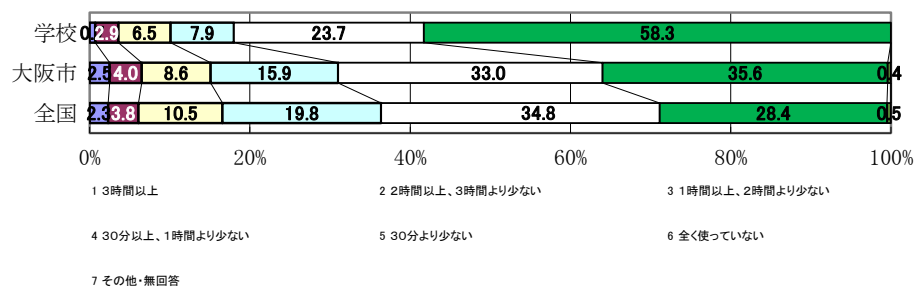
1

朝食を毎日食べていますか



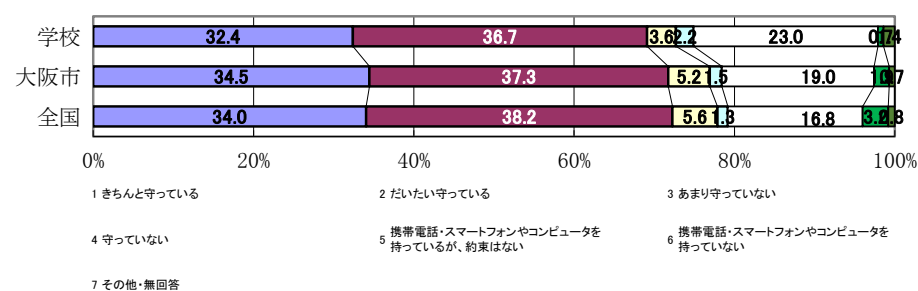
4

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）



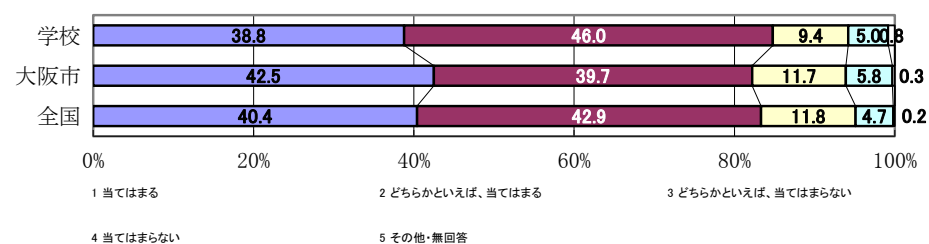
7

携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか



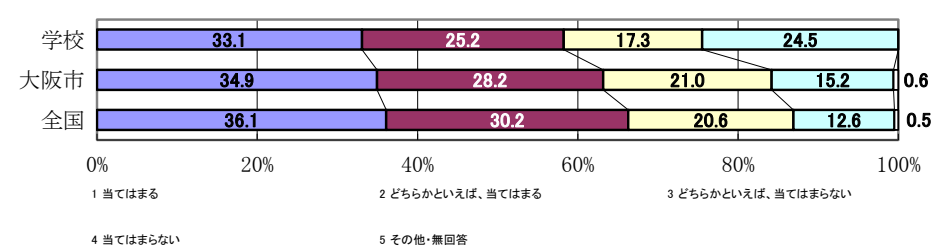
9

自分には、よいところがあると思いますか



11

将来の夢や目標を持っていますか



# 令和6年度 平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

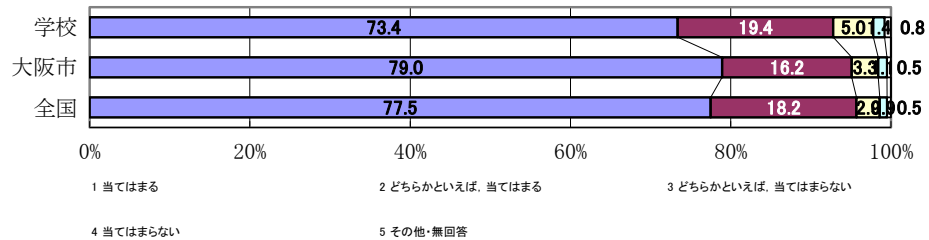
## 生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号  
質問事項

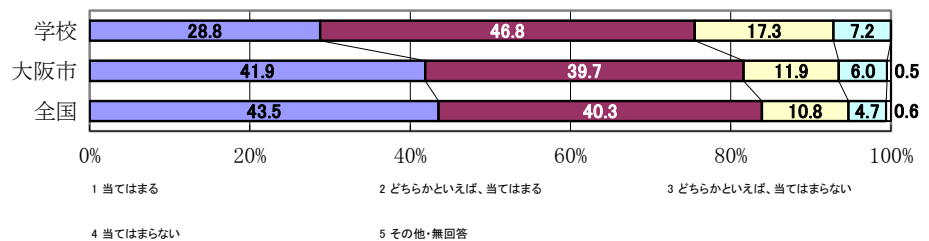
13

いじめは、どんな理由があってもい  
けないことだと思いますか



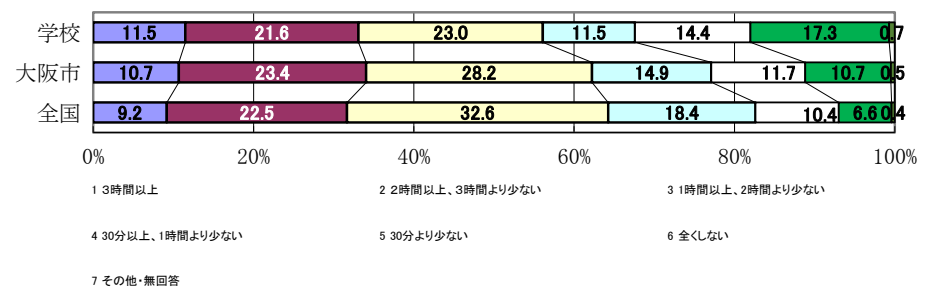
16

学校に行くのは楽しいと思いま  
すか



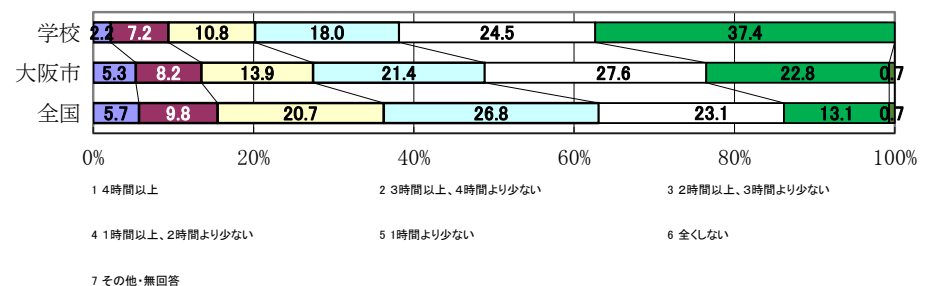
21

学校の授業時間以外に、普段(月  
曜日から金曜日)、1日当たりどれ  
くらいの時間、勉強をしますか(学  
習塾で勉強している時間や家庭教  
師の先生に教わっている時間、イン  
ターネットを活用して学ぶ時間も  
含む)



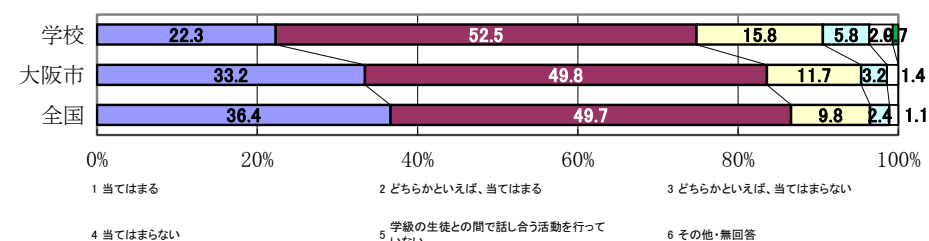
22

土曜日や日曜日など学校が休み  
の日に、1日当たりどれくらいの時  
間、勉強をしますか(学習塾で勉  
強している時間や家庭教師の先生  
に教わっている時間、インターネット  
を活用して学ぶ時間も含む)



33

学級の生徒との間で話し合う  
活動を通じて、自分の考えを  
深めたり、新たな考え方に気  
付いたりすることができていま  
すか



令和6年度 平野中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

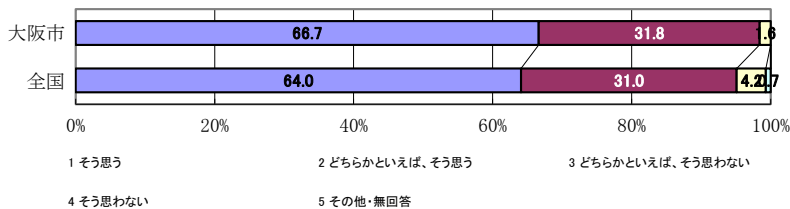
質問番号

質問事項

8

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、生徒が相談したい時に相談できる体制となっていますか

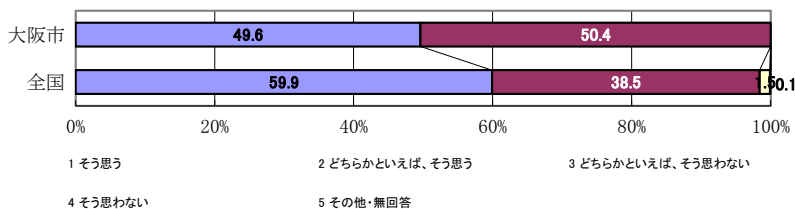
学校 「そう思う」を選択



20

学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいますか

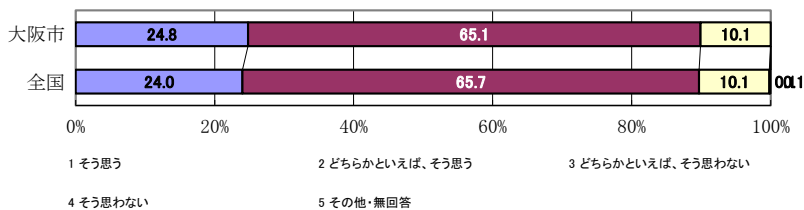
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



27

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

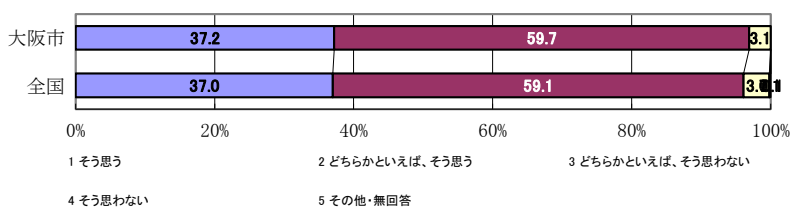
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



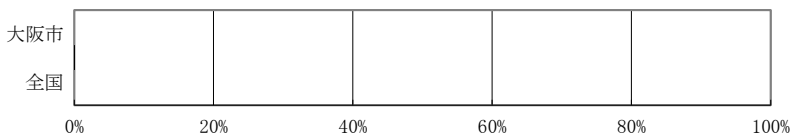
28

調査対象学年の生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



学校 「」を選択





調査結果から

## 中学生チャレンジテスト調査結果（3年、2年）

### 【3年生】

チャレンジテストにおいて、理科はかなり健闘した。理科の分野である「粒子」「生命」「知識・技能」「記述式」では、全てにおいて大阪府の平均点を上回った。

数学も「短答式」の分野で大阪府の平均をわずかながら上回った。

しかしながら、国語・社会・英語については大阪府の平均と比較すると、国語が4ポイント、社会は4.8ポイント、英語は4.2ポイント下回ってしまった。

入試の時期も間近なため、分野において大阪府の平均を上回った理科や数学では、これまで通り授業を中心に丁寧に取り組んでいく。

そして、社会では「思考・判断・表現」と「記述式」、国語においては「情報の扱い方に関する事項」や「書くこと」、英語においても「書くこと」や「記述式」が大阪府平均にかなり近かったため、上記の分野を授業や家庭学習などで、時間を多めに割いて説明や解説を行い、問題に取り組む回数を増やすことによって、まずは入試までに実力を高めていきたい。

### 【2年生】

国語の平均は大阪府の平均より5.7ポイント低かったが、国語の無解答率は大阪府よりも優れていた。つまり、分からない問題に対してあきらめず、何とか答えを書こうとする生徒が多くいたのである。漢字や歴史的仮名遣いなどを答える問題によっては、大阪府の平均を上回る点数がいくつかあった。

5教科の中で、英語が一番大阪府の平均に近かったものの3.7ポイント、社会は4.7ポイント、理科は5.9ポイント、数学は8.8ポイント下回った。しかしながら、英語においても「聞くこと」の問題4つ、「書くこと」の問題3つは大阪府の平均以上の点数であった。なお、社会の平均無解答率は大阪府平均と同じ値であった。

4月からは受験生になるため、授業や家庭学習などで多くの問題に取り組み、入試に対応できる力をつけていきたい。



調査結果から

## 中学生チャレンジテスト調査結果（1年 plusも含む）

### 【1年生】

チャレンジテストが行われた国数英において、大阪府平均と最も近かったのは数学で3.6ポイント下回った。続いて、国語が4.2ポイント、英語が5.9ポイント低かった。

国語の「言葉の特徴」漢字の読みや書き取り問題では、大阪府の平均点を上回る問題も6つ以上あったものの、全体の平均点を比較すると、大阪府の平均を4.2ポイント下回った。数学は3.6ポイント、英語は5.9ポイント低かった。

数学においても、特に「関数」の分野では5つ以上の問題で大阪府の点数を上回った。英語においても、「聞くこと」の問いにおいて、5つ以上の問題で大阪府の点数を上回った。

大阪市独自のテストであるチャレンジplusが実施された社会と理科では、大阪市の平均と比較すると、理科が4.3ポイント、社会は7.9ポイント下回った。

理科では「生命」の分野が最も大阪市の平均に近く、2.2ポイント低かった。社会では「地理」の分野が大阪市の平均に最も近く、1.4ポイントの差であった。

2年生と同様、家庭学習や授業で数多くの問題に取り組み、3年生になるまでに受験に対応できる力をつけていきたい。

## 大阪市英語力調査（GTEC）

CEFR AI（英検3級）相当以上の英語力を有する割合は目標の55%に届かず、41.6%であった。「読むこと」が大阪市の平均より8.7ポイント低く、他の分野においても、「聞くこと」は11ポイント、「書くこと」は23.8ポイント、「話すこと」はそれぞれ12.3ポイント低い。

「書くこと」についての今回のテストの良い点は、英語を文章で書ける生徒が以前よりも増えてきていることである。力をつけた生徒は英語力をどんどん伸ばしている。しかしながら、英語の文を書くのが苦手な子もいて、何文かを書くことは難しいと感じている生徒もいる。

今後も授業や家庭学習などで、問題に取り組む回数を増やすことによって、まずは入試までに実力を高めていく。

## 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

男子は8種目中の1種目（50m走）、女子は8種目中の2種目（握力、上体起こし）で全国平均を上回ったが、体力合計点では男女とも全国・大阪市を下回る結果となった。

運動習慣等調査の「運動が好きですか」という質問に対し、「好き」と答えた割合は、男子の全国平均の65.5%とほぼ変わらない65.2%であった。女子は全国平均の43.2%をかなり上回る46.9%であった。本校の生徒は運動好きな生徒が多いことが分かる。

今後は生徒の実態に合わせて補強運動を考え、運動量を確保できるような授業内容を工夫し、体力向上につなげていく。